

本書のメインテーマ「WGIP」は20年以上前に、拙著『検証戦後教育』で詳述しましたが、当時の文書公開の制約から民間情報教育局文書の中の39頁の原史料に限定されており、米政府の対日心理戦略との連続性の中で捉えられなかった点に限界がありました。しかし近年新たに公開された機密文書により、WGIPの思想的・実践的源流や策定過程の実証的研究が可能となりました。

さらに、こうした在外文書の調査研究と平行して、レンタカーで全米に設置された慰安婦像と邦人子女いじめの現地調査を行い、ユネスコの「世界の記憶」の「南京大虐殺」「慰安婦」登録をめぐる「道義国家日本の歴史戦」に取り組んできた経験を踏まえた論稿も加えさせていただきました。

戦前と戦後の教育を二項対立的にとらえ、教育勅語や修身教科書を「軍国主義」と同一視して、一方的に断罪する風潮がいまだに続いています。教科書問題、靖国参拝問題、慰安婦問題、朝鮮人戦時労働者（「徴用工」）問題はすべて「反日日本人」が火をつけた「日本発」の「歴史戦」です。こうした歴史認識問題の根底に、「日本人の伝統的な国民道徳＝軍国主義」と洗脳したWGIPがあった事実を、史実に即して正確に認識する必要があります。この洗脳計画の思想的・実践的源流を解明し、米軍の対日心理作戦の延長線上で作成されたWGIPの策定経緯と実態を明らかにすることによって、今もなお私たちを拘束し続けている洗脳から脱却し、日本人の道徳を取り戻したいものです。



高橋 史朗